

茶釜の湯に織機を寄贈

結城紬の体験工房「紬の里」

通所リハビリセンター「茶釜の湯」に3月18日、テーブルコースターなどを織る織機が寄贈されました。寄贈していただいたのは、結城市内の結城紬の体験工房、紬の里（井上総子社長）です。

井上社長は、茶釜の湯で1年前から糸取りの体験を行っているのを知り、「結城紬の産地である施設で、きっと仕事にしていたという方も多くいるはず。糸取りで作った糸を使ったり、毛糸や古布などで織物も楽しんでほしい」と寄贈していただきました。

18日は、織機とともに井上社長も指導に茶釜の湯を訪れました。利用者さまは、織機の周りに集まって興味深げに見ていました。早速、若い頃に機織はたおりをしていたという利用者さまがチャレンジ。井上社長に要領を教してもらおうと、すぐに手慣れた手つき、足さばきで織っていきましました。車いすに乗ったままチャレンジしたり、片手が不自由で手助けしてもらいながら織ったりと、この日は12人がチャレンジ。この日はケーブルテレビの取材も来ていて、利用者さまはインタビューに答えたり、若い頃従事していた結城紬の仕事を説明し、高機たかぼたや地機じぼたの違いや景気の良かったころの話、紬織の工程や仕事のむつかしさなどを懐かしそうに話していました。

2019年3月19日

